

# 園芸タイムリー情報

## 《5月中・下旬版》

平成27年 5月15日発行 第1号  
 上川農業改良普及センター  
 Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009  
 E-mail asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp  
 HomePage http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm

### 全作物共通



#### 1 施設栽培



- 気象情報に留意し、低温が予測される場合はハウスやトンネルを早めに閉めるなどし、作物の生育適温を確保しましょう。
- 日中急激にハウス内温度が上昇することがあります。高温障害や生理障害が助長されますので、被覆資材等を活用し作物の生育適温を確保しましょう。
- 高温・乾燥時は、作物の生育や土壌の水分状況をしっかり確認し、適切なかん水管理に努めましょう。
- 高温・乾燥傾向で経過していますので、ほ場をよく観察し害虫の発生に十分注意しましょう。
- 今後、田植え作業等で忙しくなるのでハウス管理には十分注意しましょう。

#### 2 露地栽培

- 天候不順等でほ場準備が遅れる場合、苗の老化防止に努めるとともに、地温や土壌水分を十分確保してから定植しましょう。
- 局所的な大雨が年々増えています。突然の天候不良に備え、明きょ等を事前に設置しておきましょう。


※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。


作物名	たまねぎ									
病虫害 生理障害名										
ネギハモグリバエ										
発生状況	↑ 発生初期の 症状									
発生注意										
発生時期										
5月下旬～										
発生の状況・要因										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回目の発生は5月下旬頃からとなる。</li> <li>・発生初期は葉身部に縦並びの白色小斑点（写真上）を生じる（食痕・産卵痕など）。</li> <li>・幼虫がふ化し、白色すじ状の食害が拡大する（写真下）。</li> <li>・葉数の少ない株では著しい生育不良や枯死株が発生する。</li> </ul>										
対策										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・白い線条の幼虫被害が発生してからでは、防除効果が得られにくい。</li> <li>・5月中旬から成虫の食痕を観察し、食痕を観察したら速やかに薬剤防除を行う。</li> <li>・1回目の発生は、合成ピレスロイド剤によりアザミウマ類との同時防除を行う。</li> <li>・7～10日間隔で2回散布する。</li> <li>・葉身部全体に薬液が付着するよう、展着剤を加用する。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt;</p> <table border="0"> <tr> <td>●アグロスリン乳剤</td> <td>2,000倍</td> <td>収穫7日前まで</td> <td>5回以内</td> </tr> <tr> <td>●アディオン乳剤</td> <td>3,000倍</td> <td>収穫7日前まで</td> <td>5回以内</td> </tr> </table> <p>※ いずれの薬剤も展着剤を加用する（まくぴか 5,000倍）。</p>			●アグロスリン乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	5回以内	●アディオン乳剤	3,000倍	収穫7日前まで	5回以内
●アグロスリン乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	5回以内							
●アディオン乳剤	3,000倍	収穫7日前まで	5回以内							

作物名	ねぎ（ハウス軟白）																	
病虫害 生理障害名																		
ネギアザミウマ																		
発生状況	↓ 吸汁された葉身																	
発生注意																		
発生時期																		
4月下旬～																		
発生の状況・要因																		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月下旬（2月定植）よりリレー苗を定植しているほ場で発生が確認された。</li> <li>・葉身にかすり状の食害が見られ、周辺に茶色の成虫が確認された。</li> </ul>																		
対策																		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほ場を観察し、発生初期に薬剤散布する。</li> <li>・ネギアザミウマの合成ピレスロイド抵抗性個体が発生しているため、使用薬剤の系統をよく確認する。</li> <li>・薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt;</p> <table border="0"> <tr> <td>ディアナSC</td> <td>2,500～5,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>ウララDF</td> <td>1,000～2,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>3回以内</td> </tr> <tr> <td>アクトラ顆粒水溶剤</td> <td>1,000～2,000倍</td> <td>収穫3日前まで</td> <td>3回以内</td> </tr> <tr> <td>リーフガード顆粒水和剤</td> <td>1,500倍</td> <td>収穫7日前まで</td> <td>2回以内</td> </tr> </table>			ディアナSC	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内	ウララDF	1,000～2,000倍	収穫前日まで	3回以内	アクトラ顆粒水溶剤	1,000～2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	リーフガード顆粒水和剤	1,500倍	収穫7日前まで	2回以内
ディアナSC	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内															
ウララDF	1,000～2,000倍	収穫前日まで	3回以内															
アクトラ顆粒水溶剤	1,000～2,000倍	収穫3日前まで	3回以内															
リーフガード顆粒水和剤	1,500倍	収穫7日前まで	2回以内															

作物名	すいか・メロン・きゅうり
病虫害生理障害名	 <p>すいかの茎の症状</p>
菌核病	
発生状況	
発生に注意	
発生時期	
5月中旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> <li>茎や果実の花落ち部に白色のかび（菌糸）を生じて腐敗する。</li> <li>腐敗部には黒色の菌核を形成する。</li> <li>20℃前後の比較的低温が続き、多湿の場合に発生が多くなる。</li> <li>すいかやメロンでは、着果期を過ぎ茎葉が繁茂したハウスで発生が多くなる。</li> </ul>	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>過去に発生したほ場では、観察を十分に行い、早期防除に努める。</li> <li>換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。</li> <li>被害茎葉・果実は見つけしだい除去し、ほ場外へ搬出する。</li> <li>ほ場周囲に明渠を設置するなど、排水改善に努める。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●スミレックス水和剤 <ul style="list-style-type: none"> <li>すいか： 1,000～2,000倍 収穫7日前まで 5回以内</li> <li>メロン： 2,000倍 収穫前日まで 3回以内</li> <li>きゅうり： 1,000～2,000倍 収穫前日まで 6回以内</li> </ul> </li> <li>●ロブラール水和剤 <ul style="list-style-type: none"> <li>すいか・メロン・きゅうり： 1,000倍 収穫前日まで 4回以内</li> </ul> </li> </ul> <p>※スミレックスくん煙顆粒は、すいか・きゅうりには登録がありますが、メロンには登録がありませんので、注意しましょう。</p>	

作物名	すいか・メロン・きゅうり
病虫害生理障害名	 <p>ハダニ</p> <p>被害葉(すいか)</p> <p>被害葉(きゅうり)</p>
ハダニ類	
発生状況	
発生に注意	
発生時期	
5月中旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> <li>葉の裏に寄生し、吸汁により葉の表に白いかすり状の斑点が現れる。</li> <li>増殖すると葉全体が黄変枯死する。</li> <li>高温乾燥を好むため、ハウスでは露地よりも早く発生する。</li> <li>本年は気象が乾燥傾向で推移しており、発生が早まることが懸念される。</li> </ul>	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。</li> <li>ハウスでは、侵入しやすい出入り口やサイドなどの開口部付近を中心に、よく観察する。</li> <li>薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。</li> <li>ミツバチを放飼しているほ場では、薬剤散布を控える。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●すいか <ul style="list-style-type: none"> <li>コロマイト乳剤 1,000倍 収穫7日前まで 2回以内</li> <li>スターマイトフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 1回</li> </ul> </li> <li>●メロン <ul style="list-style-type: none"> <li>ピラニカEW 2,000～3,000倍 収穫3日前まで 1回</li> <li>コロマイト乳剤 1,000倍 収穫前日まで 2回以内</li> </ul> </li> <li>●きゅうり <ul style="list-style-type: none"> <li>カネマイトフロアブル 1,000～1,500倍 収穫前日まで 1回</li> <li>ダニサラバフロアブル 1,000倍 収穫前日まで 2回以内</li> </ul> </li> </ul>	

作物名	トマト
病虫害生理障害名	 <p>葉かび病の初発症状</p>
葉かび病	
発生状況	
少発生	
発生時期	
5月上旬～	
発生の状況・要因	
<p>初発期の症状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>下～中位葉で葉表の葉色がスポット状に黄変している。</li> <li>葉裏のカビは若干発生している。</li> </ul>	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>発生が確認されたら、可能な限り摘葉した後、薬剤散布する。</li> <li>下～中位葉での発生を中心に観察する。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●トリフミン水和剤 3,000～5,000倍 収穫前日まで 5回以内</li> <li>●アフェットフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内</li> </ul> <p>※アフェットフロアブルの使用回数は3回以内となっているが、耐性菌の出現を防ぐため1～2回/年の使用に留める。</p>	

作物名	トマト類
病虫害生理障害名	 <p>葉裏に寄生</p> <p>吸汁された葉身</p>
ミカンキイロアザミウマ	
発生状況	
少発生	
発生時期	
4月中旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> <li>4月中旬より育苗床での発生が確認された。</li> <li>葉身に吸汁害が見られ、周辺に黄色の個体が確認された。</li> </ul>	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>ほ場を観察し、発生初期に薬剤散布する。</li> <li>薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ウララDF 2,000倍 収穫前日まで 3回以内</li> <li>カスケード乳剤 2,000倍 収穫前日まで 2回以内</li> <li>コテツフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内</li> </ul> <p>※コテツフロアブルはマルハナバチへの影響期間が長いので留意する。</p>	

作物名	さやいんげん
病虫害生理障害名	葉が急激に萎凋している

作物名	きく
病虫害生理障害名	

アフノミセス 根腐病		胚軸の褐変が見られ
発生状況		
少発生		
発生時期		
5月上旬～		
<b>発生の状況・要因</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>はじめ根部に淡褐色で水浸状の病斑が形成され、これが胚軸部に伸展する。病斑はやがて褐色となり、主根の脱落などが見られる。</li> <li>地上部は脱水症状を起こしたように萎凋する。</li> <li>インゲンマメの発芽後数週間で感染が起こる。</li> <li>発病適温は25～28℃であり、4月からの好天により、ハウス内が高温で経過したことが発生が早まった原因と考えられる。</li> </ul>		
<b>対策</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>連作により菌密度が高まるので、輪作を基本とする。</li> <li>過去に発生した圃場では通常の施肥に加え、播種前に速効性窒素肥料（尿素、硫酸等）を10aあたり10kg施用し、土壌中に全層混和すると発病が抑制される。</li> </ul>		

白さび病																							
発生状況																							
発生に注意																							
発生時期																							
5～6月																							
<b>発生の状況・要因</b>																							
<ul style="list-style-type: none"> <li>比較的湿度が低く、葉が濡れた状態が長く続くと発生しやすい。</li> <li>かん水や結露による作物の濡れは早めに乾かす。</li> <li>病斑のある葉は取り除き、ハウスより搬出する。</li> </ul>																							
<b>対策</b>																							
<ul style="list-style-type: none"> <li>低温多湿時は防除を行う（7～10日間隔）。</li> <li>かん水や結露による作物の濡れは早めに乾かす。</li> <li>病斑のある葉は取り除き、ハウスより搬出する。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 予防的防除           <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>硫黄燻蒸の実施</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ジマンダイセン水和剤</td> <td>400～600倍</td> <td>5回以内</td> </tr> <tr> <td>または兼商ステンレス</td> <td>2,000～3,000倍</td> <td>8回以内</td> </tr> <tr> <td>アフェットフロアブル</td> <td>2,000倍</td> <td>3回以内</td> </tr> </table> </li> <li>● 発生時防除           <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>ピリカット乳剤</td> <td>1,000倍</td> <td>6回以内</td> </tr> <tr> <td>アミスター20フロアブル</td> <td>2,000倍</td> <td>5回以内</td> </tr> <tr> <td>ラリー乳剤</td> <td>3,000倍</td> <td>5回以内</td> </tr> </table> </li> </ul>			硫黄燻蒸の実施			ジマンダイセン水和剤	400～600倍	5回以内	または兼商ステンレス	2,000～3,000倍	8回以内	アフェットフロアブル	2,000倍	3回以内	ピリカット乳剤	1,000倍	6回以内	アミスター20フロアブル	2,000倍	5回以内	ラリー乳剤	3,000倍	5回以内
硫黄燻蒸の実施																							
ジマンダイセン水和剤	400～600倍	5回以内																					
または兼商ステンレス	2,000～3,000倍	8回以内																					
アフェットフロアブル	2,000倍	3回以内																					
ピリカット乳剤	1,000倍	6回以内																					
アミスター20フロアブル	2,000倍	5回以内																					
ラリー乳剤	3,000倍	5回以内																					

◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。

◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病害虫の発生を最小限に抑制しましょう。

◆この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、幌加内町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。気象・土壌条件、作業体系から、当地域以外には適用されませんので十分ご注意ください。(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)

◆掲載されている農薬情報は、平成27年4月30日現在の登録内容となっていますので、活用の際はあらかじめ安全使用基準を確認くださいようお願いいたします。

■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□GAP手法の活用□■□■□■□■□■□■□■□■□■□

農作業事故編 — 農作業事故の防止は日頃の安全確認から —

- 農機の点検や清掃、異物除去等を行う際には、必ずエンジンを停止しましょう。
- 危険な場所（視界不良や段差など）が無い、日頃から確認を行いましょう。
- 危険を伴う作業（ハウスビニール脱着など高所作業等）を行う際は、安全確認を必ず行いましょう。
- お互い声かけできる範囲内で作業を行い、なるべく「ひとり作業」は控えましょう。

■□